

平成22年度 社会福祉法人はばたき福祉事業団 事業報告書

平成22年4月1日 から 平成23年3月31日まで

平成23年 3月31日

目次

社会福祉法人はばたき福祉事業団 平成22年度事業報告	1頁
I. 社会福祉事業	
(1) 事務所相談	
①電話相談	3頁
②個別面接相談	3頁
③広報	4頁
④ライブラリー	4頁
⑤ケースカンファレンス	4頁
⑥献花	5頁
⑦訪問相談	5頁
⑧啓発資料	5頁
(2) 相談会事業	
①地方相談会	6頁
②研修会	6頁
II. 法人本部	6頁
III. 公益事業	8頁
1 薬害遺族等支援事業	8頁
2 教育啓発事業	8頁
添付資料	
資料1. ケースカンファレンス	
資料2. 来訪相談	資料3. 訪問相談
資料4. 地方相談会	資料5. 研修会
資料6. 主なシンポジウム	
資料7. シンポジウム参加	

社会福祉法人はばたき福祉事業団 平成22年度事業報告

はばたき福祉事業団は、平成18年8月28日、厚生労働大臣認可の第2種社会福祉事業を行う社会福祉法人として認可された。同年8月30日設立（設立登記）。

はばたき福祉事業団は、平成9年4月設立後、9年を経て社会福祉法人となる。社会福祉法人資格を得て相談事業を核に、薬害HIV感染被害者を中心とした事業団職員が被害救済と被害教訓及び事業実績を生かして社会福祉に貢献することにより、当初の設立目的の被害救済と公共の福祉に寄与する事業をさらに広がりを持って行うことができるようになった。

設立5年になり、はばたき福祉事業団が掲げる理念「医療福祉を創造する」をもとに、HIV/AIDS 偏見差別に対し現実的対応として安心して働く環境を得ることで、偏見・差別の固定化・払拭を目指して社会全体が協働していく動きを取り組み始めて4年でつくり出した。（偏見・差別）

また、薬害 HIV 感染被害者・遺族については、被害患者の HIV/HCV 重複感染やその他の合併症の悪化が進み、これまでの医療体制ではなし得ていないことから、長崎大学を中心とした研究班に働きかけ、一人一人の被害患者の命を救うことを急務とする体制づくりに腐心した。重複感染などの合併症、副作用などから東西合わせて被害者の実に半数に迫る659人になる命が失われ、未だに年間10人以上もの犠牲が出ている。（医療福祉）

犠牲者が増えることは新たな遺族が増加することでもあり、遺族の対策についても今年度から始まった新たな支援策についてのアンケート調査や健康支援事業の試行実施に取り組み始めた。（遺族対応）

被害患者・遺族・家族の高齢化に直面し、改めて支援対象者の確認などを全国規模で開始した。

高齢化は、はばたき福祉事業団として被害者・一般の HIV 感染者・血友病患者も未知の経験を迎えることであり、長期療養の実際的な研究や被害者遺族の健康支援事業対応は待ったなしではばたきの事業の重い課題となった。（高齢化）

HIV 医療体制や福祉、また血友病に関連した医療福祉について、はばたき福祉事業団が研究機関として登録できたことから、研究目的の実現をするための創造ある研究を進めている。長期療養や自立的社会参加（大人、小児）、就労の協働などを研究事業として推進させた。実際的な事業としての取り組みは、HIV 検査相談室運営、北海道の健康支援事業による HIV 医療福祉の推進などを継続的に実現させている。（研究推進と地域活動）

HIV/AIDS に関して一般的相談において、電話相談が増加し、特に感染不安や検査後結果が出るまでの心配などの相談が多数を占めている。また、突然発症で、家族等への説明や会社への対応などの戸惑いの相談も増えてきた。男性同性愛の相談対応は特定の NGO へ行っているため、当事業団へは異性間など男性、女性の相談が多い。（一般の相談）

被害者相談は、遺族等相談事業の助成事業を有効に活用し、被害者の救済機関でもあることから、こちらからの働きかけに対する反応が良くなっている。患者・家族や遺族全体がプライバシーを気にせずに対応することが多い。高齢化や健康状態の悪化、将来的不安が募ってきている様子がこれらの相談を通して伺える。（被害者相談）

はばたき福祉事業団の法人経営は、社会福祉法人はばたき福祉事業団役員（理事8人、監事2人）の理事会の決定に基づき運営している。そして、運営等については評議員会（評議員21人）の諮問を受けている。

理事会で決定された法人運営は、理事長、事務局長のもとに支部事務局長（3人）、常用職員（4人）、

非常勤職員（相談員を含む19人）が、22年度実務を執行した。事業団は、社会福祉事業と公益事業の2事業を遂行している。主たる事業になる社会福祉事業は、厚生労働大臣認可の全国法人としても稀な存在（障害者相談事業主体）の運営は、これまで培って来た救済事業としての相談事業を更に拡張し、HIV感染者や血友病などの障害者手帳を持つ障害者・家族の相談事業を担っている。薬害エイズ感染被害者遺族等については、公益事業の中で遺族救済としてさらに充実化に努めている。運営に関し、遺族等相談事業の国補助金や助成事業の助成金では、薬害エイズ被害者の救済を恒久的に行うには直接の運営人件費が出ないところで極めて厳しいところがある。22年度は経費の節減に努力した。その結果、被害救済を柱とした恒久対策の充実化を図りつつ永続的に行うことを目指し、極力自己資金の取り崩しを抑えていくようにした。

I. 社会福祉事業

1. 身体障害者の更生相談に応ずる事業

(1) HIV 感染症や血友病の障害者等にかかわる自立や医療健康相談の対応

事務所（本部、北海道支部（札幌）、東北支部（仙台）、中部支部（岐阜）、九州支部（福岡））にて、患者・家族からの電話・手紙等郵便物・メールや相談室での面接による来訪相談を行う。また事務所は、相談員、事務局員により、地域性を考慮した相談会の企画・運営を行うなど、相談事業運営にあたった。

法人の行う相談事業は、『一人一人を大切に』を課題に、個別相談を中心にして、個々の状況に応じたフォローを行っている。各種相談事例を事務局全体で受け止め、相談者の負担軽減が少しでも向上するよう適切且つ継続的な対応と、対応の質の向上を図るため、週1回ケースカンファレンスを行っている。特に被害者については恒久的救済のフォローをするため、個人用ファイルのような相談事例の長期保存が必要。このケースカンファレンスには固定の専門家相談員に参加してもらい、総合判断力とスムーズな対応の向上に努めている。現在のケースカンファレンスの特定された専門家相談員（臨床心理士やACC調整職）が参加。被害者のつながりは、各種相談・調査・アンケート等で、多くの人は住所・電話など連絡先や近況を告げてくれ、相談事業・事務所とのつながりがより身近になっている。しかし、遺族の中には世代が変わったりして、連絡が難しい人や連絡を断りたいなどの人が増えている。このような人へのアプローチの課題があるのをどうフォローしていくかを専門家相談員と検討をしながら個々に対応をとった。

13年度から始めた「はばたきライブラリー」は、HIV感染症・血友病・薬害エイズ関連資料・福祉・医療等々の資料整理を進めている。今年度は新聞記録から、83年から今日までの薬害エイズやHIV/AIDS関連の記事の年次別掲載件数などを、早稲田大学マスコミ情報の研究をしている大学院生がはばたきで情報整理をしつつエイズ学会で発表をした。閲覧希望者などにも薬害エイズやHIV/AIDSに関する書籍の貸し出しを行った。HIV・血友病等に関する資料や医療情報は、相談に生かすとともに、はばたき福祉事業団の講演会・相談会等で資料提供に役立てている。

ライブラリーで行っている「はばたきホームページ」にも活用し、HIV感染等々に係わる障害者の啓発、差別・偏見解消の取組みなど、はばたき福祉事業団を広く知ってもらうための広報に努め、ホームページも随時更新して常に新しい情報を伝えるようにしている。ホームページは22年度も改良を行い、より見やすく親しみのあるものへの改訂を進め、今年度中に新しいものを公開する。また、22年8月にブログ「はばたきブンブン」を立ち上げ、ホームページを補完する形で内容もやわらかく、扱いもより易しいものとして活用を始めた。また、万一、ホームページがダウンしたときも活用できる身軽な装備のものとした。

今年度は、就労をテーマに実績を重ねてきた助成事業は新たな展開で雇用側である企業のワークショップを開き具体的に雇用側の不安や関心となるものを検討、討論し、問題解決の方向性を得る機会とした。結果は想定よりも多くの企業やハローワークの参加を得て、実際に雇用が成立に向かうケースもあ

った。研究事業は一本増え、被害患者の長期療養研究（厚生科研費）の分担研究を担い、長期療養の実際的な図面を引く取っ掛かりとしてアンケート調査・個別面接調査を行った。患者の将来不安となる課題を全国から集めることができた。

北海道支部は今年度から道委託事業（患者家族支援事業・医療者ネットワーク事業・エイズ情報収集提供事業）を新たに始めた。また、検査相談室「サークルさっぽろ」での検査相談事業は、web 予約や外国人通訳導入などで着実に成果を上げている。インフルエンザ流行の際に全国的に保健所での受検者数が減ったが、サークルさっぽろでは減少はなかった。今年度 12 月に 3 周年記念イベントが札幌市で開催された。道委託事業でネットワーク活用の一環として、サイト「HAND」を立ち上げた。今年度に常勤事務職員が配置され、事業の幅が出た。

東北支部は、夏に専従の相談員の欠員ができ、適切な人材が配置できるまで、非常勤の者と本部との連携で運営に努めた。仙台医療センターとの連携や被害者フォローも含め課題としている。ただし、3 月 11 日の災害で、当面本部が代替機能をするようになった。

中部支部は小規模ながら個別の相談対応やこれまでの地域交流を生かした小規模な相談会・交流会を実施し、2 人の相談員で相談実績を上げることができた。なお、HIV/HCV 重複感染者の重篤化が例外なく問題となっており、病状経過を追うため病院訪問や自宅訪問などのフォローが頻繁に行われた。

九州支部では HIV 感染者の就労や偏見・差別解消への取り組みに、他の人権啓発団体との連携やマスコミを活用しての取り組みに成果を挙げた。新聞にも数回取り上げられ一面に掲載された機会もあった。中部支部同様、抗 HIV 薬の副作用等による被害者の入院や薬の相談などが数多くあり、常勤事務職員の存在は相談事業の質向上にも成果があった。

①電話相談

相談員等による電話相談窓口を開設し、HIV 感染症患者／障害者・家族・遺族等からの電話による相談を相談員等・専門家相談員が受けた。

電話相談件数全体は 925 件と増加。但し、各支部での電話相談件数は微増。（17 年度；242 件、18 年度；514 件、19 年度 453 件、20 年度；619 件、21 年度；728 件）。フリーダイヤル利用は、継続的相談者での利用が多いのと、今年度は増加した。メールによる相談はやや減少、手紙相談は微増。なお、遺族・家族からの手紙相談が多い。電話相談件数については、21 年度は 3 月、22 年度は 2 月、が一番多かった。全体的に近況報告、就労、リポジストフィー、遺族からの家族や血友病相談、医療機関の受診など利用の相談等が目立った。一般の相談としては、感染不安、検査後の結果待ち期間での不安、病状相談などがあり、感染不安相談が一番数としては多い。今年度末に東日本大震災が起き、3 月は前例にない取り組みとなった。

電話・メール・手紙による月間相談件数（本部・北海道支部・東北支部・中部支部・九州支部の合計。／前年度比）。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	20	18	22	21	22	20	20	20	17	20	19	23	242
電話相談 件数	63 /10	59 /15	80 /23	67 /18	86 /29	73 /-39	49 /-10	62 /19	83 /41	96 /45	107 /22	100 /-17	925 /202
メール相談 件数	3/3	11/9	18/14	12 /10	6/1	10/0	14/3	12/8	20 /13	12/7	24/13	3/-11	145/69
手紙相談 件数	11 /-11	14/8	1/-1	5/0	4/-1	20 /11	7/-8	12/8	5/-1	19 /13	8/0	2/-11	109 /8

※電話相談件数の内 213 件はフリーダイヤルにより相談 17 年；85 件、18 年；106 件；19 年 69 件；20 年 114 件；21 年 180 件)

【参考：相談室別室】今年度の利用の特徴は、脳内出血後のリハビリ看病、肝硬変悪化による看病、等々遠方からの本人・家族利用、外来処置が遅くなり帰宅不能のための臨時使用などが目立った。相談室別室利用 95 日使用)

②個別面接相談

事務所相談室（相談室 1 及び相談室 2、各支部相談室）で、相談員等による遺族・患者・家族等の面接相談を行っている。今年度は遺族・患者・家族の事務所での面接相談は 52 件。（17 年度；13 件、18 年度；44 件 19 年度；34 件 20 年度；41 件 21 年度；60 件。22 年度は就労、年金、HIV/HCV 重複感染悪化による肝硬変や肝がん・悪性リンパ腫治療の先駆的医療相談、血友病治療・遺伝の相談も目立つ。

がんや悪性腫瘍・肝硬変など生死にかかわる深刻な相談が増え、継続対応している中で2人が肝がんで亡くなった。肝硬変による移植準備相談は2件、これまでの生体肝移植に加え脳死肝移植の対応が現実的になった。遺族からの面接相談は、遺族の健康や将来の相談、保因者の娘等々、親族の血友病遺伝の相談が増えている。

面接相談件数（月別／前年度比）。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	20	18	22	21	22	20	20	20	17	20	19	23	242
相談件数	5/1	9/5	4/-2	5/-4	2/-4	5/2	1/-2	6/3	4/-1	5/0	4/-2	2/-4	52/-8

③広報

○被害者向け相談情報『壁新聞』の発行 4回（41-44号）発行。22年度はページ数は少なくとも継続的に発行に力を入れ、遺族の相談会や遺族支援の新たな取り組みについての説明に注目度を挙げた。患者には肝臓の検査（入院検査も含め）を行う取り組み情報を行った。相談事業をより身近なものとして、相談しやすさを広報することに務めた。『壁新聞』は、はばたき福祉事業団相談員・事務局が編集・発行している。

○『上場企業1000社アンケート』22年度も、継続して行なった。3回連続の調査である。これまでの回収率としては悪かったが、回答企業は社名や担当者名を明記し問題点などの記載が多く関心があがったと見ている。協働しての取り組みに大いに期待感が出た。

④ライブラリー

○資料収集・管理について

13年度に開設したライブラリーは7年目を迎える。新聞記事等は、記事を切り抜き、A4紙の貼り付け、分類してファイリング。HIV/AIDS関連記事などはスキャンして読み込み。電子保存化したものは、現在はホームページの貴重な情報提供等の基となっている。また、公開については、分類を進め次年度、順次ホームページ上に掲載してバーチャル資料館の役割を高めている。

電子保存化した資料件数（平成22年度）

	新聞記事
4月～3月	HIV/AIDS関連（薬害エイズを含む）903件
	その他の医療記事 954件
	ファイリング中の記事 約4,000件

○ホームページ

はばたき福祉事業団のホームページでは、薬害エイズ関連の情報提供、再発防止のための取り組みとして血液事業・献血推進や医療について積極的な情報を掲載している。バーチャル資料館の役割を担う大きな支えになっている。一昨年末、ホームページ全面改訂を行ったが、サイバー攻撃での傷の修復に時間を要し、また作業自体の進み方が遅かったため公式ホームページの反映が全面復旧に届かなかった。そのため、身軽で更新が容易なブログ「はばたきブンブン」を8月に立ち上げ、できるだけ更新を早めていった。またマイクロソフトの助成で立ち上げた「はばたきWAV」で就労関係のものは集約化させた。また、血友病情報として厚生科研「血友病の根治を目指して；坂田班」で分担研究を当事業団事務局長が行っている成果をホームページで掲載し、当事者発信の世界・日本の区別ない情報を提供するためコーナーを開設した。22年度のアクセス数は、年度中のホームページ再構築に時間がかかり、正確な数値が計測できなかった。22年度年度末にリニューアルができ、今後その成果として発表していきたい。

⑤ケースカンファレンス

ケースカンファレンスを1回／週（水曜日 10:30～12:00）、定期的に行った。参加者は、はばたき相談員等と専任の専門家相談員。相談事例によっては支部・地域相談員も参加。ケースカンファレンスでは、電話、手紙、メール、来訪、訪問等での相談者を対象とした。ケースカンファレンスを行うことによって、被害者一人一人のケースフォローが深まっている。相談事例を専門家相談員とともに検討することで、相談員等のレベルアップにもつながっている。特に遺族の健康相談事業創出のきっかけや、HIV/HCV重複感染の研究班・被害者の長期療養研究班発足もここからの必要性討議から生れている。

検討事例 1,236 件 (341 件増)。

ケース検討月間件数 (／前年度比) ※17 年度累計数 ; 272 件、18 年度 ; 590 件、19 年度 712 件、20 年度 ; 792 件
21 年度 ; 895 件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	4	3	5	4	4	5	4	3	4	4	4	5	44
検討件数	99	84	124	97	79	111	73	86	101	111	146	125	1236

⑥献花 献花は今年度、3月29日の和解記念日におくることとしていたが、3月11日に発生した東日本大震災で、交通網の寸断により輸送ルート確保が問題となり、また花材問題で、3月23日に延期の連絡を出すことになった。今年度実施は輸送ルートが確保できる見通しが立たない。

※ちなみに21年度は252件だった。

⑦訪問相談

遺族・患者・家族等などからの要請によって、相談者の自宅もしくは入院中の病院、相談者の希望する場所に、相談員等が出向き相談を受けた。17年頃から被害者の自宅への訪問相談が多い。当事業団との接点において、プライバシーを気にしていた時代から信頼できる人や仲間たちとの垣根は低くなり、変化をしてきている。被害者の生活全体の理解を得ることで、より深まった相談の実績が上がっている。被害者が少しずつ社会との接点をもてる自己意識の変化につなげたい。病院訪問は、遺族の病状悪化や、患者の肝疾患悪化などで、今年度は88件と増えた。前年度は41件と少なかった。

22年度訪問相談月間件数。 ※17年度 ; 46件、18年度 ; 64件、19年度 ; 63件、20年度 ; 62件、21年度 ; 41件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	3/-3	7/2	8/3	18 /13	11 /11	6/5	1/-4	4/2	6/-1	9/8	10/9	5/-2	88 /47

⑧啓発資料

○『HIV感染者就労のための協働ワークショップ《分ったぜ 協働の力》(22年度)報告書』 実際に働いている人も多く、雇用者にとって何が不安や心配で HIV/AIDS の偏見や受け入れる障害となっているかをハローワーク等を通じて採用している企業やこれから採用を考えている企業などの担当者が集まって問題点を出す。その問題点に対し HIV 医療専門医などに意見を聞いたことをまとめた。

○『薬害 HIV 感染被害者・家族等の現状から見た、血友病に係る今後の課題及び課題克服への支援研究(報告書)』 血友病患者・家族向け自立を目指した支援ツール開発への取り組み。海外での血友病とエイジングや家庭環境報告など、世界血友病連盟の大会(アルゼンチン)のレポートで紹介。血友病・HIV・HCV と複雑な治療と今後の社会参加や高齢者の生活も紹介。

○『慢性疾患の子どもたちの自立を目指した支援プログラム開発に向けて 報告書』 大人のセルフマネジメントプログラムは日本にも導入されているが、早いうちに社会的自立を見込んだ自己管理について身につける子供版が必要ということで、英国での保健省から要請されて国関与の小児プログラムの進捗具合を調査に行き、医療と福祉が一体となったプログラムで患児も受けるメリットのがある等の評価もあり、その報告をまとめた。

○『ずっといっしょにはたらく BOOK』 就労時、また就労中に HIV 感染症の治療を継続しながら会社の理解を得られる環境作りに向けたブックレットを作成。自己開示をして長く勤めていく事を目的としている。全国に配布。1刷2000部。

○『エイズ学会参加第5回スカラシップ委員会報告書(共同発行)』 HIV 感染当事者団体等3団体でエイズ学会参加の会費・旅費補助のため、寄付を募り、選考に該当した感染当事者に補助。5回目は50人参加(応募者57人)。4回目は48人、3回目は57人、2回目は43人、1回目33人が参加している。HIV 感染症の最新の治療や医療環境などを勉強する機会とした。所定のシンポジウムと報告書提出の義務がある。

○『献花アンケート』 和解の日に因み、3月29日にいっせいに発送の予定だったが、今年度は東日本大震災があり延期。当アンケートにより、北海道から沖縄に散在する遺族の実情や近況を知ることができ、遺族対応に生かす大切な情報とした。

（２）相談会事業

はばたき福祉事業団では、独自の小さな地域遺族相談会を年4回以上、全国で実施している。小さなきっかけから打ち明けができる機会を増やしていくことを目指した。この5年を見ても、亡くなる被害者が年間10人はおり、新たに遺族になる人が増えていることで、残念ながら遺族数が増えていることへの対応もこうした地域相談会で対応していきたい。

大阪との共同の遺族相談会「のぞみの会」は、後半で50回という記念すべき相談会を神戸で開くことができた。

①地方相談会

本部・支部の全体の取り組みで、全国の被害者の実情や今後の救済事業反映のため、それぞれの地域に合った相談会を企画・実施した。昨年度同様、深刻化しているHIV/HCV重複感染やその治療意欲、また医療機関の予防治療の徹底などをテーマにした医療講演会・相談会を行った。患者・家族の中に病気に向き合っていないことから適切な医療機会を失うという課題が抽出された。これらは今後厚労省やACC／ブロック拠点病院に対して、意識向上を改めて要求していくことにつながった。遺族対象とした、独自の遺族相談会を行った。最近指摘されていたが、支部の中に遺族対応が十分でないところもあり、本部の担当者が中心に遺族対応を行ない、連携を保つ努力を始めた。

地域医療相談会 【HIV／HCV重複感染、その他医療相談会】

各地域の実情にあった医療講演会・相談会を行った。また、ACC・ブロック拠点病院での協議などに地元患者・家族の相談会を実施。開催地区；北海道地区2回、東北地区2回、関東甲信越地区3回、北陸東海中部地区2回、近畿地区2回、九州地区2回。

地域相談会 【地域遺族相談会、地域相談会】

地域限定のはばたき遺族相談会（6回）を開催し、年2回の遺族相談会（のぞみの会）を補完するとともに、より個別対応の充実を目指した。支部と本部の連携の下に、地域の実情を考慮した相談会を地域相談会として開催した。北海道地区1回、東北地区1回、関東甲信越地区8回、北陸東海中部地域2回、近畿地区2回、中国四国地域1回、九州地域3回、沖縄地域1回。

②研修会

相談事業をより充実させそして円滑に目的を遂行するため、相談員等が、事業団運営や相談事業について研鑽し、質的向上と企画設計能力をつける研修会を行った。また、社会福祉法人としての公的仕事に従事することから、社会福祉法人としての相談事業の取り組みについて研修を行う。

22年度；4回実施（東京4回）

Ⅱ. 法人本部

はばたき福祉事業団法人の経営は、社会福祉法人はばたき福祉事業団役員（理事8人、監事2人）による理事会の決定に基づき運営される。そして、運営等について評議員会（評議員21人）の諮問を受ける。

理事会で決定された法人運営は、理事長、事務局長（1人）のもとに支部事務局長（3人）、常用職員（4人）、非常用職員（相談員を含む19人）が、実務を執行。

社会福祉法人はばたき福祉事業団は、社会福祉事業と公益事業の2事業を遂行する。主たる事業になる

社会福祉事業は、厚生労働大臣認可の全国法人としても稀な存在（障害者相談事業主体）の運営は、これまで培って来た救済事業としての相談事業を更に拡張し、H I V感染者や血友病などの障害者手帳を持つ障害者・家族の相談事業を担っている。また、これまで相談事業の中で行われていた薬害エイズ感染被害者遺族等については、公益事業の中で遺族救済としてさらに充実化に努めている。

(1) 本部・支部事務所

- ① 業務時間 午前 9 時 30 分～午後 5 時
- ② 業務担当 事務局長、支部事務局長、会計担当者、ホームページ担当職員を定めた。
- ③ 事業設備 本部：東京都新宿区新小川町 9-20 新小川町ビル 5 階
北海道支部：北海道札幌市 東北支部：宮城県仙台市
中部支部：岐阜県各務原市 九州支部：福岡県福岡市
- ④ 職員・非常勤職員
常用職員： 4 人（本部 3 人、北海道支部 0 人、東北支部 0 人、九州支部 1 人）
非常勤職員： 7 人（本部 3 人、北海道支部 2 人、九州支部 2 人）
相談員： 12 人（本部 8 人、東北支部 1 人、中部支部 2 人、九州支部 1 人）

(2) 運営資金

- 通常経費 ・事業運営資金
- ・補助金 ①平成 22 年度エイズ患者遺族等相談事業 委託費
(委託者：財団法人友愛福祉財団)
②札幌検査・相談室「サークルさっぽろ」
(委託者：札幌市)
 - ・助成金 ①平成 22 年度独立行政法人福祉医療機構（社会福祉振興助成事業）
②平成 22 年度厚生科学研究費補助金
③平成 22 年度成育医療研究委託事業
 - ・賛助会費・寄附金

運営費について、当事業団財務プロジェクトや理事会からの指示で、拠出金の目減りを極力減額するための経費節減と収入増を図る寄付金・賛助会費の強化、助成事業の取り組み方などに努力し、特に拠出金切り崩しについては 22 年度極限まで切り詰めることが出来た。今後は、増収を恒常的に維持できる取り組みが案件となる。

寄付金については、2,473,480 円(21 年度 1,921,427 円)で下降気味なところを止めることができた。賛助会費は低迷を続けていて、200 万円に達せず 1,017,000 円(21 年度 1,508,000 円)で終わっている。どちらも、本部、支部からの呼び掛けや情報発信を更に強化しなければならない。

Ⅱ. 公益事業

1. 薬害エイズ遺族等支援事業

(1) 遺族相談会

遺族相談会は、東京・大阪の遺族相談員が遺族交流の意味を含めて合同で企画・開催している。実施にあたっては、当事業団では企画・実施担当である遺族相談員をバックアップするため、事務局全体で積極的に対応している。18年度から年2回実施。遺族相談会は担当する遺族相談員のみが現場での対応をするため、相談員の高齢化や参加する遺族被害者の高齢化等々も考え年2回の開催とした。企画にあたっては、小人数のグループに分かれての話し合いを中心に行い、遺族同士が他で話せない事も気兼ねなく話すことが出来るように十分に配慮し実施している。一方、遺族の自立も役割として大切で、開催に際してできるだけ社会との接点を広げられるよう、考慮している。20年度から自助による相談会の本来の姿をめざして、担当相談員に頼る相談会運営から、参加者それぞれが役割分担をして、視野の拡大や自立のための踏み込みを強めた企画・運営に取り掛かる。これにより、参加者の固定化の脱皮も図って行きたい。『遺族相談会（のぞみの会）』の参加は、遺族と弁護士と専門家相談員。個別相談の希望者には相談員とともに専門家相談員や弁護士が対応している。今後の運営については、担当相談員の高齢化や費用負担も考え、事務局のバックアップ体制も再考していく。

今年度、秋の遺族相談会（のぞみの会）は、50回という記念すべき会となった。これまでの参加枠を越えて、東京側の主催者から、はばたき福祉事業団の理事長が限定的ながら挨拶する機会を得た。また、会場も兵庫県の六甲山ホテルという雰囲気のあるホテルで開催した。参加者は、記念となる会に記憶に深く焼き付けられたと考える。

- | | |
|------------------|--------------------------------|
| 1回『遺族相談会（のぞみの会）』 | 平成22年5月8日(土)-9日(日) <長良川温泉 十八楼> |
| 岐阜県岐阜市 | 参加者37人（はばたき参加者 21人） |
| 2回『遺族相談会（のぞみの会）』 | 平成22年10月16日-17日（日） <六甲山ホテル> |
| 兵庫県神戸市 | 参加者53人（はばたき参加者 25人） |

2. 教育啓発事業

①機関紙発行（2回）（「はばたき」29号-30号）

②第7回はばたきメモリアルコンサート（2月21日）開催 千駄ヶ谷「津田ホール」
来場者 250人

その他

- ・平成22年度エイズ予防財団「血液凝固異常症全国調査運営委員会」参加
- ・平成22年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「血液凝固異常症のQOLに関する研究」血液凝固異常症QOL調査運営委員会参加
- ・厚生労働省薬事・食品衛生審議会血液事業部会
- ・献血推進の在り方に関する検討会
- ・薬害肝炎事件の検証及び再発防止のための医薬品行政の在り方検討委員会

資料編

資料 1. ケースカンファレンス検討件数と事例 19年度；712件、20年度；792件

週に一度、相談事例を専門家相談員とともに検討する「ケースカンファレンス」を毎週水曜日 10:30 から 12:00 に定期的におこなった。その後の対応等を検討した。

回	22年度日付	検討相談（件数）	主な事例への対応
1	4月7日	56	献花の礼と近況報告、移植医療
2	4月14日	17	遺族相談会問合せ、血友病治療、移植治療
3	4月21日	18	HIV医療、ACCの医療体制不安、肝移植
4	4月28日	8	生活全般、遺族相談会出席相談、障害年金
5	5月12日	28	近況報告、障害年金、清瀬園等就労準備について
6	5月19日	13	肝移植医療、相談室別室（宿泊施設）利用
7	5月26日	43	訪問相談について、治療検診申込、母子調査、地域遺族相談会問合せ
8	6月2日	22	訪問相談後の対応、障害年金手続き、生体肝移植
9	6月9日	17	遺族相談会出席しての相談・感想
10	6月16日	25	遺族地方相談会の問い合わせ、薬害根絶誓いの碑見学希望
11	6月23日	37	遺族の悲哀と近況報告、就労、腎移植と医療費
12	6月30日	23	四国地区地方相談会後の対応、治療検査入院問合せ
13	7月7日	23	相談室別室の問合せ、近況報告、肝硬変治療
14	7月14日	24	血友病治療と遺伝問題、医療機関対応
15	7月21日	21	就労とカウンセリング、母子調査
16	7月28日	29	東大の移植医療、統合失調症等の発現数
17	8月4日	16	血友病調査、遺族の相談、
18	8月11日	22	発症者手当、遺族の近況報告、就労など清瀬園について
19	8月18日	24	遺族近況報告、和解金の使途相談、保険契約の相談
20	8月25日	17	インヒビター治療、就労相談、死亡連絡
21	9月1日	18	就労環境の改善、清瀬園対応、発送部の中止願い
22	9月8日	23	秋の遺族相談会問合せ。担当者からの死亡連絡、医療機関の製剤ストック
23	9月15日	18	遺族の悲哀、悲しみ、HIV/血友病への偏見
24	9月22日	41	
25	9月29日	11	
26	10月6日	21	就労相談と清瀬園入園、肝がん治療
27	10月13日	11	生体肝移植、弁護士との係り、ボアトフィ治療
28	10月20日	30	遺族訪問相談数件後の対応、肝がん治療とHIV薬
29	10月27日	7	千葉・茨城地域相談会、清瀬園入園について
30	11月10日	19	関東甲信越の医療体制と要望、青森・秋田地区遺族相談会後の対応
31	11月17日	41	長崎の治療検査対応、生体肝移植、提訴していない遺族の対応
32	11月24日	26	二次感染者&遺族の治療と悩み、HCVとボアの治療検査
33	12月1日	20	医療者の対応について、就労支援施設の対応、遺族相談会の相談
34	12月8日	28	就労相談、肝硬変、肝移植、拳児、老後の生活
36	12月15日	23	遺族相談会後の対応について

37	12月22日	30	長崎入院検査の対応、遺族訪問相談、生体肝移植
38	1月5日	30	相談室別室利用、長崎入院検査、食道静脈瘤処置
39	1月12日	13	障害年金、長崎入院検査、血友病治療
40	1月19日	20	長崎入院検査、リポアトロフィ手術後、遺族訪問相談
41	1月26日	48	
42	2月2日	43	コンサート問合せ、遺族相談会問合せ、就労清瀬園
43	2月9日	41	長崎入院検査、遺族近況報告、就労相談
44	2月16日	22	リポアトロフィ治療相談、長崎入院検査、献花問合せ
45	2月23日	40	メモリアルコンサート問合わせ、献花対応、死亡連絡、長崎入院検査
46	3月2日	34	献花、近況報告、遺族相談会、メモリアルコンサート
47	3月9日	15	孫の血友病医療、献花について
48	3月16日	37	献花、生体肝移植、長崎入院検査について
45	3月23日	16	保険加入、献花、長崎入院検査、医療機関対応
46	3月30日	23	血友病治療、医療機関対応、献花

資料2. 主な面接相談（来訪相談）

	来訪日	相談者	内容
1	4月2日	本人	血友病・就労相談・近況・入院検査（長崎）
2	4月7日	本人	血友病・HIV・生活
3	4月28日	本人	精神科受診、定期カウンセリング効果にいて
4	5月13日	行政担当者	検査相談室の担当打合せ
5	5月14日	本人	治療経過報告と近況、長崎入院検査
6	5月18日	関係支援者	検査相談室の広報や効率化
7	5月31日	一般	就労への情報提供
8	6月25日	本人	がん治療と長崎入院検査
9	7月14日	本人	近況報告と生きがいについて
10	7月20日	本人	リポジストロフィーの効果を見せに来る。肝硬変治療の相談と近況報告
11	7月21日	本人	生活全般の相談と近況報告。一人暮らしをしてみたい。
12	7月26日	本人	近況報告と服薬の相談
13	7月8日	本人	相談室別室利用、拳児、血友病治療
14	7月15日	本人	検査告知について、治療歴等
15	8月20日	本人	肝炎調査と孫の血友病治療の心配
16	9月22日	遺族妻	最近夫を亡くし、遺族の心境や身内の問題の相談
17	10月20日	本人	HIV治療、生活全般
18	11月22日	本人・父	生活全般の相談と医療機関の感染不安の誤った認識
19	11月26日	医療者	被害者の把握できない重症者について
20	11月29日	本人	近況報告と精神的な悩み
21	11月29日	本人	フォローアップインタビュー・カンファレンスについて
22	12月6日	本人	生活全体と近況報告
23	12月7日	本人	リポジストロフィー手術問合せと抗HIV薬の変更について
24	1月17日	本人	リポジストロフィー手術の経過報告と止血管理

25	1月17日	本人	抗 HIV 薬、脳内出血後遺症の相談
26	1月21日	遺族兄	納骨の連絡と説明
27	1月24日	本人	近況報告、生活習慣の改善、生活費
28	2月8日	本人	女性感染者としての社会参加相談
29	2月9日	本人	就労と職業訓練等の相談
30	2月22日	本人	医療者のかかわり、近況報告と友人被害者の心配

資料3. 訪問相談事例から
主な訪問

	H22 年度	訪問地	訪問場所	
1	5月26日	東京都江東区	昭和医大豊洲病院	遺族が救急で入院。不安があり相談員と面会要請。入院の経緯と病状について。
2	6月16日	東京都杉並区	杉並区自宅	遺族訪問、近況と難病の妻の病状をうかがう
3	7月6日	新潟県佐渡市	佐渡市自宅	今迄話せなかった辛さを訴える。息子への思い、闘病のつらさ、今後を聞く。遺族
4	7月10日	東京都江東区	昭和医大豊洲病院	発熱と食欲不振、やせ気味。親族の面会が殆どなく、はばたきが頼り。遺族
5	7月22日	東京都江東区	昭和医大豊洲病院	現在の病状、気持ちを聞く。今後の生活に希望を持ってそうに無い様子。遺族訪問
6	7月30日	長崎県壱岐市	壱岐市自宅	亡くなった患者宅を訪問。
7	8月4日	東京都江東区	昭和医大豊洲病院	病状の見通し立たず、気持ちが不安定。
8	8月11日	東京都江東区	昭和医大豊洲病院	病気入院中、現在の病状・希望を聞く。
9	8月18日	東京都江東区	昭和医大豊洲病院	病室に訪問。購入を頼まれた衣服を届け、現在の病状や気持ちなどを聞く。
10	8月22日	宮城県仙台市	ベルホール南鍛冶町	亡くなった相談員の弔問と経緯を家族に聞く。
11	8月26日	奈良県橿原市	奈良県立医科大学	吉岡学長から血友病の遺伝相談について聞く。
12	9月24日	東京都杉並区	杉並区荻窪病院	荻窪病院理事長から血友病のインタビュー。
13	9月29日	東京都江戸川区	江戸川区自宅	一人暮らしの遺族、定期的訪問。気持ちの変化や現在の生活状況
14	10月17日	沖縄県那覇市	那覇市自宅	健康相談で伺うが、本人には会えず
15	10月18日	広島県広島市	広島市自宅	遺族訪問相談（北海道から転居後、地元相談員と近況を伺う。老母介護が悩み）
16	10月20日	東京都新宿区	東京医科大学臨床検査科	遺伝カウンセリングや遺伝子検査の実情を伺う
17	11月1日	山梨県	山梨県自宅	遺族・患者（二次感染）訪問、健康状態や日常での近況について伺う
18	11月9日	東京都港区	東大医科研	北大から整形外科入院の患者に付き添い病院まで立ち会う
19	11月30日	広島県広島市	広島大学疫学疾病制御学研究室	長期療養調査で手法について伺う
20	12月2日	宮城県仙台市	仙台市自宅	遺族訪問、亡くなって間もないところへの訪問。亡くなった時の様子や、妻の現状を伺う
21	12月2日	宮城県大崎市	大崎市自宅	遺族訪問相談、現在一人暮らしの様子と長男親子のことを聞く

22	12月16日	福井県福井市	福井プラザホテル	遺族訪問相談（近況と健康状況、血友病の孫の近況。抱える悩みを話す対象者が不在）
23	12月13日	長崎県大村市	大村市自宅	患者訪問相談（関節などの運動障害や血庁を伺う）
24	12月13日	長崎県諫早市	諫早市センリウホテル	患者訪問相談（長期療養について調査を伺う）
25	2月10日	三重県桑名市	桑名市自宅	患者訪問相談（肝硬変進行で名大入退院を繰り返しているのその後の体調について伺う）
26	2月15日	北海道札幌市	北海道大学病院第二内科教授室	北海道ブロック担当者交代のため、長くブロック長をされていた第二内科教授を訪ね、礼と今後の指導を仰ぐ
27	2月20日	福岡県北九州市	北九州市会場	患者訪問相談（近況を尋ねて、長期療養調査）
28	2月20日	福岡県福岡市	福岡市会場	患者訪問相談（治療と病院、長期療養調査）
29		佐賀県佐賀市	佐賀市会場	患者訪問相談（治療と長期療養調査）
30	2月21日	長崎県佐世保市	佐世保市会場	患者訪問相談（就労と顔のコケ具合のリンクや、地域の患者会について）
31	2月23日	東京都杉並区	杉並区自宅	遺族訪問相談（夫妻の近況を伺う。妻の体調が悪く、夫も疲れ気味）
32	2月27日	長野県上田市	上田市自宅	遺族訪問（遺族が亡くなり姪自宅に状況とその後を伺う）
33	3月2日	東京都新宿区	ACC 相談室	患者訪問相談（膝、股関節の置換手術に続き、両肘も手術。痛みから解放される）
34	3月2日	東京都新宿区	ACC 病棟病室	患者訪問相談（がん治療、医療者の対応の変化）
35	3月2日	北海道札幌市	北海道大学病院	患者訪問相談（入院の原因と患者の気持ち）
36	3月11日	北海道札幌市	北海道大学病院病棟	患者訪問相談（人工関節置換手術の経緯について）
37	3月19日	北海道札幌市	北海道大学病院病棟	患者訪問相談（人工関節置換手術とセカンドオピニオン）
38	3月20日	北海道札幌市	北海道大学病院	患者・医療者への相談訪問（人工関節置換手術とセカンドオピニオン）
39	3月26日	北海道札幌市	北海道大学病院	患者・医療者訪問相談（糖尿病等の健康）
40	3月30日	北海道札幌市	北海道大学病院	患者訪問相談（血友病・抗 HIV）
41	3月30日	埼玉県新座市	墓苑	昨年亡くなった患者の墓参を兼ねて

資料 4. 主な地方相談会

相談会名	開催日	会場名
< 地方相談会 > 東北相談・懇談会(仙台市) 東北地域	平成 22 年 5 月 15 日	主に医療についての各自の問題点や薬害や医療の経緯を学ぶ／東北支部相談室／(7 人)
< 地方相談会 > 神奈川県被害者の集まり「やまゆりの会」 (横浜市) 神奈川県	平成 22 年 7 月 3 日	患者の現状把握と医療情報提供／横浜中央法律事務所／本部／(10 人)

＜地方相談会＞ 医療相談会(弘前市)青森地区	平成 22 年 9 月 4 日	被害者対象相談会／弘前市「アソベの森 いわき荘」会議室／(11 人)
＜地方相談会＞ 北陸地方ブロック拠点病院三者協議事前相談会(金沢市)石川県	平成 22 年 10 月 25 日	HIV 医療体制や救済医療の取り組みについて意見交換／石川県立総合中央病院／(7 人)
＜地方相談会＞関東・甲信越地方ブロック拠点病院三者協議事前相談会(新潟市)新潟県	平成 22 年 11 月 2 日	関東甲信越ブロックに全国の感染者が集中している。その医療体制と被害者の救済医療の両立をはかる／自治会館／(10 人)
＜地方相談会＞ 東海ブロック拠点病院三者協議事前相談会(名古屋市)愛知県	平成 22 年 11 月 18 日	HIV 医療体制や救済医療の取り組み、中核拠点病院継続問題について意見交換／国立名古屋医療センター／(7 人)
＜地方相談会＞ 第 24 回日本エイズ学会学術集会での集まり(港区)東京都	平成 22 年 11 月 24 日 -26 日	はばたきが関連するシンポジウムに集まった被害者の相談会／高輪プリンスホテル／(12 人)
＜地域相談会＞ HIV 感染者就労のためのワークショップ・当事者雇用や雇用に悩んでいる企業の担当者のワークショップ(大阪市)大阪府	平成 22 年 12 月 6 日	被害者等を雇用している企業や考慮中の企業。／梅田センタービル／(20 人)
＜地方相談会＞ 関東甲信越医療講演会(新宿区)東京都	平成 22 年 12 月 7 日	関東甲信越地域の医療と日本全体の HIV 医療について／日本青年館／(8 人)
＜地方相談会＞ 北海道地方ブロック拠点病院三者協議事前相談会(札幌市)北海道	平成 22 年 12 月 13 日	北海道ブロックの医療、ブロック拠点病院の機能について相談／(15 人)
＜地方相談会＞ 中部地域 遺族の集い(中部)中部地域	平成 22 年 12 月 15 日	被害者遺族対象相談会／名古屋都市センター(7 人)
＜地方相談会＞ 近畿地方ブロック拠点病院三者協議事前相談会(大阪市)大阪府	平成 22 年 12 月 21 日	近畿地方の被害者等の医療相談会／大阪医療センター／(20 人)
＜地方相談会＞ 中国・四国地方ブロック拠点病院三者協議事前相談会(広島市)広島県	平成 23 年 1 月 13 日	広島を中心に中四国の被害者らとの相談会／(6 人)
＜地方相談会＞ 東北地方ブロック拠点病院三者協議事前相談会(仙台市)宮城県	平成 23 年 1 月 19 日	東北地方の医療事情について報告と相談／仙台医療センター／(12 人)
＜地方相談会＞ 九州地方ブロック拠点三者協議事前相談会(福岡市)九州	平成 22 年 1 月 29 日	九州地方の医療・医療機関の現状について／国立九州医療センター／(20 人)
＜地方相談会＞ 沖縄地域 遺族相談会「遺族の集い」	平成 23 年 1 月 30 日	遺族全体に体調が悪い傾向、それぞれ体調不良、遺族固有のストレスを抱え込んでいる。今後家族同士の付き合いが大切／和風亭・沖縄県中城村／(6 人)

<地方相談会> メモリアルコンサート開催前被害者相談懇談会(東京都)全国	平成23年2月21日	コンサート開催前に、来場する被害者が相談員と懇談。互いに近況を確かめあう/津田ホールホワイエ/(10人)
<地方相談会> 「第7回はばたきメモリアルコンサート」(東京都渋谷区)全国対象	平成23年2月21日	会場を日大ガールズホールから千駄ヶ谷津田ホールに移した。遺族から聞き取った話をもとに詩を朗読/津田ホール/(250人)
<地方相談会> 「薬害エイズ裁判和解15周年記念集会」(東京都千代田区)全国対象	平成23年3月26日	/東京ステーションコンファレンス/(80人)

資料5. 研修会事業

開催日	平成22年5月19日	参加人数	14人
研修会名	事務局・相談員研修会	会場	日本ファイナンシャルアカデミー レンタルルーム (東京都新宿区)
主な事項	内容:「22年度相談事業について。相談事業の名簿管理について。遺族・患者・家族の現状について」		

開催日	平成22年10月26日	参加人数	16人
研修会名	薬害HIV訴訟和解とHIV医療体制4回目	会場	飯田橋家の光会館セミナールーム (東京都新宿区)
主な事項	内容:「ACC研修生も含め、和解によるHIV医療体制の構築と患者参加がた医療について」		

開催日	平成22年11月10日	参加人数	14人
研修会名	22年度の相談事業、これまでを振り返って 1.ケースカンファレンス、2.相談事業について、3.その他(アンケートや聞き取り、各支部からの報告)	会場	飯田橋「日本ファイナンシャルアカデミー」レンタルルーム (東京都新宿区)
主な事項	内容:「22年度から相談事業で、遺族相談会や地方相談会などのよかった点や反省点などを出し合い、のこされた年度内の対応と次年度への計画の参考とした。」		

資料6. 主なシンポジウム・講演会

シンポジウム名	「福岡市人権啓発推進者全体研修会」(対象:福岡市)	開催日	22年10月28日
会場	福岡市人権啓発センター(ココロンセンター)福岡県福岡市	参加人数	45人
内容	「市民・行政協働型啓発」「HIV感染症 最近の動向と人」「はばたき福祉事業の活動について」を講演。		
シンポジウム名	「福岡HIVネットワーク 第27回シンポジウム」	開催日	22年12月3日
会場	麻生飯塚病院 福岡県福岡市	参加人数	50人
内容	(九州支部)「HIV感染症の最新情報(飯塚麻生病院 中村権一医師)」、「HIV感染症患者の看護(九州医療センター 長与由起子医師)」、「HIVと共に、社会の中で生きる(ACC 本田美和子医師)」		

資料 7. 参加シンポジウムなど

講演会名	第 19 回日本健康教育学会学術大会（京都）HIV 感染者の雇用機会を拡大を目指す職域での健康教育ワークショップ プログラム開発及び萌芽的取組み・京都（対象：全国）	開催日	22 年 6 月 19 日－20 日
会場	<京都大学 京大会館> 京都市（本部）	参加人数	40 人
講演会名	WFH 世界大会アルゼンチン大会 世界の血友病患者・家族の状況把握と最新治療情報取得	開催日	22 年 7 月 10 日－16 日
会場	<アルゼンチン ブエノスアイレス「ラ・ルラル」>	参加人数	3,000 人
講演会名	夏合宿（奈良・万葉友の会）「患者・家族が望むプログラム」「患者と家族の懇話会」・奈良県（本部）	開催日	22 年 7 月 31 日－8 月 1 日
会場	<奈良県 かんぼの宿 大和平群>近畿（本部）	参加人数	30 人
講演会名	厚生科研 坂田班会議「血友病の根治を目指して」～分担研究柿沼班発表会・栃木県（対象：全国）	開催日	22 年 7 月 4 日
会場	<自治医科大学 研修センター> 栃木県（本部）	参加人数	45 人
講演会名	「献血推進全国大会 島根県大会」・松江（対象：全国）	開催日	22 年 7 月 23 日
会場	<島根県民会館> 島根県松江市（本部）	参加人数	400 人
講演会名	「登録団体とココロンセンターとの共同事業」実行委員会 福岡市人権啓発センターとの人権教育等々の共同事業計画・福岡市（対象：福岡県）	開催日	22 年 9 月 14 日
会場	<福岡市人権啓発センター> 福岡県福岡市（九州支部）	参加人数	16 人
講演会名	「ハートフルフェスタ福岡 2010」〈HIV 感染者の就労についてはばたき事業団の取り組み紹介・ブース展示〉	開催日	22 年 10 月 10 日
会場	<福岡市役所西側“ふれあい広場”>福岡県福岡市	参加人数	21,000 人
講演会名	「人権・同和問題企業事業主研修会」・福岡市（福岡市） サービス業事業主もしくは人事担当役員対象	開催日	22 年 10 月 14 日
会場	<都久志会館ホール> 福岡市（九州支部）	参加人数	400 人
講演会名	「登録団体とココロンセンターとの共同事業」実行委員会 2 回目 福岡市人権啓発センターとの人権教育等々の共同事業計画・福岡市（対象：福岡県）	開催日	22 年 10 月 14 日
会場	<福岡市人権啓発センター> 福岡県福岡市	参加人数	16 人
講演会名	「大分 薬害エイズの集い」大分の薬害エイズ集会	開催日	22 年 11 月 3 日
会場	<コンパホール>大分県大分市	参加人数	50 人
講演会名	「登録団体とココロンセンターとの共同事業」実行委員会 3 回目 福岡市人権啓発センターとの人権教育等々の共同事業計画・福岡市（対象：福岡県）	開催日	22 年 11 月 18 日
会場	<福岡市人権啓発センター> 福岡県福岡市	参加人数	20 人
講演会名	「ハートフルフェスタ福岡 2010」〈10 月 10 日開催参加団体意見交換会〉	開催日	22 年 11 月 10 日
会場	<福岡市人権啓発センター> 福岡県福岡市	参加人数	60 人
講演会名	「登録団体とココロンセンターとの共同事業」実行委員会 4 回目 福岡市人権啓発センターとの人権教育等々の共同事業 共同事業でしたいこと、できそうなこと」福岡市（対象：福岡県）	開催日	22 年 12 月 22 日
会場	<福岡市人権啓発センター> 福岡県福岡市	参加人数	20 人

講演会名	「登録団体とココロンセンターとの共同事業」実行委員会 5 回目 福岡市人権啓発センターとの人権教育等々の共同事業 共同事業でいたいこと、できそうなこと。今後の計画」福岡市（対象：福岡県）	開催日	23年2月23日
会場	<福岡市人権啓発センター> 福岡県福岡市	参加人数	20人
講演会名	登録団体とココロンセンターとの共同事業」実行委員会 6 回目 福岡市人権啓発センターとの人権教育等々の共同事業 共同事業	開催日	23年2月23日
会場	<福岡市人権啓発センター> 福岡県福岡市	参加人数	20人
講演会名	「登録団体とココロンセンターとの共同事業」実行委員会 7 回目 福岡市人権啓発センターとの人権教育等々の共同事業 共同事業	開催日	23年3月15日
会場	<福岡市人権啓発センター> 福岡県福岡市	参加人数	20人
講演会名	「大分 薬害エイズ和解の日の集い」	開催日	23年3月29日
会場	<大分市 コンパルホール> 大分県大分市	参加人数	50人